

C P D協議会 ECE プログラム委員会第 3 回幹事会
議事録

1. 日時：平成 22 年 12 月 17 日（金） 15:00～17:00

2. 場所：日本工学会 事務所（東京都港区芝 5-26-20 建築会館 6 階）

3. 出席者（順不同、敬称略）：

幹事長 川島一彦 東京工業大学大学院 教授

幹 事 小松生明 （社）化学工学会人材育成センター 部長、化学工学分野

持田侑宏 フランステレコム（株）CTO、電気分野

事務局 柳川隆之 日本工学会 事務局

4. 配布資料

資料 3-1 C P D協議会 ECE プログラム委員会第 2 回幹事会議事録(案)

資料 3-2 第 2 回イブニングセミナープログラム企画委員会資料

資料 3-3 ECE プログラムの目的と要件（イブニングセミナー）

資料 3-4 技術力向上教育プログラムの推進について

5. 打合せ要旨

1) 前回議事録の確認

資料 3-1 を用いて説明があり、一部字句修正の上、議事録として承認した。

2) 物質・材料基礎 ECE プログラムについて

資料 3-2、3-3 を用いて、物質・材料研究機構ナノ材料科学環境拠点マネージャー長井寿氏から提案のあった「物質・材料基礎 ECE プログラム」に関する紹介が行われた後、以下の議論を行った。

（1）物質・材料基礎 ECE プログラムは、高度技術者育成を目指すものであり、ECE プログラムとして適したプログラムである。ただし、以下の点に関しては、長井氏と確認、調整するのがよい。

（2）NIMS イブニングセミナーとして実施される年 12 回の講義のうち、5 回程度の講義を物質・材料基礎 ECE プログラムとして取り扱うとの提案であるが、年 12 回の 0 講義から構成される NIMS イブニングセミナーと 5 回の講義から構成される物質・材料基礎 ECE プログラムとの関係はどのようなになっているのか？

（3）NIMS イブニングセミナーでは、平成 23 年度には“低炭素社会と材料研究”を取り上げるとされているが、物質・材料基礎 ECE プログラムの狙いもここにおくのか？ 物質・材料基礎 ECE プログラムとしての構成、目的、到達目標をはっきりさせる必要がある。

（4）ECE プログラムの 4 要件のうちの要件 1 は、「複数の学協会が連携することが有効なプログラム」であることを求めている。これは、「多様性を受け入れ、異分野技術を取り入れていける能力向上を目指した ECE プログラムは、単独の学協会や企業だけで提供することはなかなか容易ではない。このため、日本工学会に参加する工学系学協会がその垣根を取り払い、連携して ECE プログラムを提供する」という点から明らかなように、日本工学会が ECE プログラムを自ら組織するという考え方に立っている。さらにその背景には、1) 将来は各学協会が E C E プログラムを実施して行くこと

になるであろうが、日本工学会としてコンセプトを提示しただけでは学協会独自にECEプログラムを実施するのは困難ではないかと考えられたことから、日本工学会がひな形を示し、これを参考に各学協会にECEプログラムの実施を促すのが適当である、2)日本工学会が実施するとすれば、その強みである「複数の学協会が連携することが有効なプログラム」であるべきとの前提に立っている。本ECEプログラムのように物質・材料研究機構が中心となって実施する場合には、「複数の学協会が連携することが有効なプログラムであること」という点は削除し、「多様性を受け入れ、異分野技術を取り入れていける能力向上を目指したECEプログラムであること」という点を要件1とすべきである。

(5) ECEプログラムの要件2として、「CPD取得者やその雇用者のニーズに基づいて課題と到達目標を定める」ことが示されている。提案には、1)講師との意見交換会を毎回準備する、2)講義の後に交流会を設け、ショートプレゼンテーションを必須とするとの提案があり、これは「CPD取得者のニーズ」を反映するために機能すると考えられる。ただし、意見交換会、交流会、ショートプレゼンテーションの具体的な実施の仕方については、長井氏に確認しておく必要がある。また、ECEプログラムとしてそのレベル、プログラムの選定方法、評価の客観性を担保するために「物質・材料基礎ECEプログラム推進委員会」の役割が重要である。このためには、推進委員会には物質・材料機構のメンバーの他、関連する民間企業やその他の学識経験者を加えることが有効ではないか。

(6) ECEプログラムの要件3として、「プロフェッショナルとしての専門技術力を身につけられるコース制プログラムである」ことを求めているが、これに関しては十分応えられるプログラムになっている。

(7) ECEプログラムの要件4として、「社会人基礎力の向上を取り入れたプログラムである」ことが求められている。これに対しては、1)講義の後に交流会を設け、この場でショートプレゼンテーションを必須とすること、2)レポートを必須とすることが提案されており、基本的に要件4は対応されていると考えられる。ただし、ショートプレゼンテーションの方式、レポートの内容等の具体的な内容、目的、方法に関しては、長井氏と打ち合わせる必要がある。

(8) 8月頃に見学会を必修として実施するとの提案がある。これは、座学だけでは身につけにくい実学を学ばせるために有効と考えられる。ただし、単に見て回る見学ではなく、“現場実習会”といったような表現で、実学を学ばせたり、グループディスカッションを加える等、さらに工夫ができるとECEプログラムとしてよりよいものになるのではないか。

(9) 平成23年度4月からの実施を目指して、平成23年1月1日から物質・材料基礎ECEプログラム推進委員会（岸輝雄推進委員長）を立ち上げたいとの希望が出されている。CPD協議会桑原会長等と協議し、ECEプログラム委員会幹事会としてはできるだけこの方向で支援するが、委員委嘱等、事務サイドの手配は後日さかのぼって対応することになる。

(10) 今後の本プログラムの実施のために、長井氏にECEプログラム委員会幹事会に加わっていただくのが良い。

3) 工学会HP新着ニュース原稿

資料3-4に基づいて、工学会新着ニュースにECEプログラムを紹介するための草稿が紹介され

た後、以下の議論を行った。

- (1) ECEプログラム委員会が立ち上がり、記述はできるだけ“現時点”を基本とするのがよい。
- (2) ナノテクECEの他、間に合えば物質・材料基礎ECEプログラムに関しても記述してはどうか。
- (3) ECEプログラムに対する申請書等は、後日でも良いから、平成23年1月頃にはウェブに掲載するのがよい。

6. その他

次回は別途日程調整して定める。